

Rikkyo Club of Executives & Professionals

立教経済人クラブ40周年

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：松原伸禎 事務局：TEL.03-3985-3135 <https://www.r-keizaijin.net/>



立教経済人クラブ

創立40周年記念式典



2021年10月26日（火）18:00、立教経済人クラブ創立40周年記念式典をZOOMウェビナー形式にて開催いたしました。配信は立教大学の太刀川記念館より行い、最小限のスタッフとご挨拶いただく予定の皆様のみご参列いただき、新型コロナウイルス感染症に配慮した上で行われました。今回は立教経済人クラブ会員に加え、大学、学院関係、また校友会関係の各団体様からもご参加いただき、ご来賓を含め、約230名のご出席を賜りました。

記念式典は厳かな雰囲気の中、西原廉太立教大学総長のお祈りで始まり、大塚裕司立教経済人クラブ会長の開会挨拶、来賓挨拶として戸井田和彦立教大学院理事長、西原廉太立教大学総長、和田成史立教大学校友会会長からご祝辞を頂戴しました。（当日のご挨拶の内容は2～4ページに記載）

その後、休憩を挟み、講演会の部へと移り、株式会社リクルートホールディングス代表取締役会長兼取締役会議長の峰岸真澄様より「経済社会の変革と企業の役割」と題してご講演をいただきました。（講演の内容は、6～7ページに記載）経済人クラブ会員や、学生からも多くの質問を受け付けましたが、その中でセレクトされた質問についても丁寧にご回答頂き、非常に満足度の高い講演となりました。閉会の辞として昆凡子40周年実行委員長より挨拶があり、記念式典は閉会となりました。オンラインという限られた環境の中、実行委員会、運営委員会の皆様、ありがとうございました。この式典を期に「RIKKYO ONE TEAM」のスローガンの下、更なる発展を目指していければと思います。

ご挨拶



立教経済人クラブ会長 大塚 裕司

皆様こんばんは。立教経済人クラブ会長の大塚でございます。本日はご多用の中、私どもの40周年の記念式典にご参加いただきまして誠にありがとうございます。立教経済人クラブは今年で40周年を迎えることができました。まずはこの会が歩んできた歴史について振り返りたいと思います。

立教経済人クラブの設立は1981年になります。初代会長である久保虎二郎先輩はじめ、発起人の皆様方が音頭を取り、従前の校友会とはまた違う形での、「経済人」の組織、立教らしい経済人クラブを作りたいというところからスタートしてまいりました。

歴代会長のご紹介をしてまいります。初代会長である久保虎二郎先輩は当時日動火災の社長であり、第二代会長の利光達三先輩は当時小田急電鉄の会長でいらっしゃいました。第三代会長である玉塚和男先輩は現在最高顧問でいらっしゃいまして、当時新光証券オーナーでいらっしゃったと聞いております。第四代の佐藤雄二郎先輩はアルゴ21というコンピュータの黎明期を走っていらっしゃったIT業界の大先輩です。続きまして、第五代会長は現最高顧問を務めていただいております坪野谷雅之先輩、第六代会長は同じく現最高顧問でいらっしゃいます和田成史先輩。そして第七代会長は戸井田和彦先輩。そして私は第八代目会長になります。

設立当初の経済人クラブは一部上場企業クラスの人々が集まるという形でスタートしましたが、現在は推薦を受けてという形ではありますが、立教の持っている「お互いを尊重して協働していく」という精神の下、来る者は拒まずというスタンスです。社会に貢献できる仕事を共に進めていく、という互惠の気持ちと、キリスト教の文化を大事にしたクラブでありたい、と考えております。会員相互のコミュニケーションをより一層深め、助け合いながらお互いのビジネスにとってどのようにプラスになるか、また立教大学に対しても経済人としてどのような形でお手伝いできるのかを考えてまいります。

コロナもだいぶ収束してまいりました。第六波が来るかどうかはわかりませんが、その中でまたリアルに戻し、社会の役に立つような経済人クラブの活発な活動を進めていきたいと考えています。僭越ではございましたが、40周年記念式典の開会の辞とさせていただきます。本日はありがとうございました。

歴代会長

初代	久保 虎二郎	S18年商	1981/6~1983/6	5代目	坪野谷 雅之	S40年経	2001/4~2005/4
2代目	利光 進三	S19年経	1983/6~1987/6	6代目	和田 成史	S50年営	2005/4~2017/4
3代目	玉塚 和男	S26年経	1987/6~1996/4	7代目	戸井田 和彦	S50年営	2017/4~2018/4
4代目	佐藤 雄二郎	S30年経	1996/4~2001/4	8代目	大塚 裕司	S51年営	2018/4~

祝 辞



立教学院理事長 戸井田 和彦

立教経済人クラブ40周年誠におめでとうございます。立教経済人クラブがこのように発展して40周年を迎えるという事に関しましては大塚会長をはじめ、皆様方のご尽力の賜物であると思います。改めて御礼申し上げます。

私の後を大塚会長にお願いし、大変恐縮ではございましたが、こうして40周年の節目をお祝いできますことは、私としても心より嬉しく、深く感謝申し上げます次第です。

立教経済人クラブの大きな役割として皆様には、学生・立教卒の若い力を是非応援していただきたい、年代や業種を超えた皆様との様々な交流の形を作っていただくことによって、彼らをバックアップしていただきたい、それが立教学院理事長としての私からのお願いであります。

立教学院も来る2024年に150周年を迎えることになりました。あと3年後となります。先日も男子駅伝チームが第53回全日本大学駅伝の選考会に出場し、16位の成績を取めました。2024年までに箱根駅伝に出場するという目標へのステップを着実に上がっています。その男子駅伝も含め、150周年記念事業というものが今後大学の中期計画等でもより充実した形で発表されていきますが、立教が更に成長していくベースとなるのが、皆様からの150周年記念募金へのご寄付となります。本日ご参列いただいた皆様方も是非ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

立教経済人クラブ40周年と立教学院の150周年が同じタイミングにあたった、ということですので、これを立教が更に大きくなっていくステップにしていきたいと思っております。本日はオンラインでご参加いただいている方々も含め、益々皆様のビジネス、事業が発展されますこと、益々立教から素晴らしい人材が世の中に出ていくということとともに、皆様のご健勝を祈念して、私の立教学院理事長としてのご挨拶とさせていただきます。



立教大学総長 西原 廉太

本年4月に立教大学第22代の総長に就任させていただきました西原です。立教経済人クラブ創立40周年誠におめでとうございます。立教経済人クラブの皆様はまさしく立教大学にとってかけがえのない宝物です。立教大学にはこのように素晴らしいOBOGの方、とりわけ産業経済界、関連専門分野でご活躍をなさっておられる経営者、管理職の方々がおられることに大変感銘を受け、またそれを誇らしく思った次第です。

私に与えられました任期は4年間ですが、その最終年度の2024年にはいよいよ立教大学、立教学院創立150周年を迎えます。立教にとりまして大変大きな節目となる150周年を備える総長としまして、改めて身が引き締まる思いでいるところです。私自身が何よりも大事にしていきたいのが「教育」です。質の高い学士課程教育を深化させていきたいと考えています。とりわけリーダーシップ教育やグローバル教育専攻に代表される国際化教育、そしてファーストタームプログラムと呼ばれる初年次教育にも力を入れていきたいです。また、立教サービ斯拉ーニングと呼んでおりますが、社会連携型の教育、社会連携、産業連携教育の活性化を基軸とした改革を本格化させて参りたいと思っております。とりわけサービ斯拉ーニングにおいては経済人クラブの皆様方のご助力をいただけますと心から嬉しく思います。

創立150周年に向け、立教大学の建学の精神を再確認しながら、私達の立教大学を教えるもの、学ぶもの、それを支えるもの、助けるものが真に誇れる大学にしていきたい、また何よりも選ばれる大学にしていきたいと考えております。そのためにも経済人クラブの皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。立教経済人クラブの益々のご発展ならびに会員の皆様お一人お一人のご健康とご多幸をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。おめでとうございます。

祝 辞



立教大学校友会会長 和田 成史

本日は立教経済人クラブ40周年記念式典、誠におめでとうございます。立教大学校友会という組織をまとめていく会長の役割として、「立教大学の応援団」であるということと、会員皆様方の親睦を深めるお手伝いをしていく、という2つの柱を掲げて運営させていただいております。私は立教を故郷のように思っております。中高大の10年間、立教にお世話になって、今現在このように会社を経営したり色々なことができるのも、立教の諸先生方の支えがあってからこそだと、つくづく感じています。また、20年前、立教経済人クラブに入会し、今度は私の卒業生としてのホームグラウンドが立教経済人クラブとなりました。私の会社の創業が1980年で、経済人クラブの創立が1981年です。経済人クラブで活動していく中で、会社をスタートして間もなくの頃、経済人クラブの総会に参加したことを今でも覚えています。創立30周年の際は経済人クラブ会長を務めさせていただいており、大勢の方々の愛情に触れながら先輩後輩との関係、立教愛を深く感じ取っております。

経済人クラブの活動を進める中で、校友会との関係も深くなるとともに、三つの話題に注目しています。一点目は六大学野球です。立教大学野球部は前回のリーグ戦でも優勝争いに絡むなど最近の活躍は目覚ましいものがあります。二点目は女子体育会です。ラクロスや陸上、水泳部、スピードスケートなどでも女性部員が活躍しています。三点目としては先日の予選会で16位に入った箱根駅伝です。是非校友の大勢の皆様は立教大学、紫のタスキを箱根で見たいと思っています。

今後も立教経済人クラブを盛り上げながら、大勢の方々の懇親の場として築いていきたいと思っております。改めまして40周年記念式典誠におめでとうございます。どうもありがとうございました。

40周年記念式典を振り返って

40周年実行委員会

最初に40周年記念式典を無事に終了することができましたことをご報告申し上げます。

記念式典にご参加いただきましたすべての皆様、ご協力をいただきました関係各位に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

この度の立教経済人クラブ40周年記念式典が実施されるまでの経緯を少しだけご報告させていただきます。当初2020年11月20日実施を予定して準備しておりましたが、2019年12月ごろから新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、日本においても2020年2月頃から外出やイベントの自粛等で式典が実施できない事態となりました。そこで40周年記念式典の実施を2021年10月26日に1年延期し準備を進めました。ところが、コロナ感染症が終息することはなく、本年7月に会員の皆様に式典実施の可否についてアンケートを取らせていただき、結果、2021年度中に実施することを会員の皆様が希望し

謝 辞



40周年実行委員長 昆 凡子

皆様こんばんは。立教経済人クラブ創立40周年実行委員長を仰せつかりました昆凡子です。まず最初に本日この素晴らしいご講演をいただきました株式会社リクルートホールディングスの峰岸様、誠にありがとうございました。この基調講演をご依頼してから様々な状況の変化があり、日程や実施の内容についても変更が続きました。ご多忙な中でもご快諾いただき、本日を迎えることができましたこと重ねてお礼を申し上げます。

また、ご来賓の皆様、立教大学・校友会の皆様、立教経済人クラブ会員の皆様、すべてのご参加の皆様にお礼申し上げます。

私ども40周年実行委員会は、「つながれ！立教 ONE TEAM」というスローガンの下、活動を続けてまいりました。今回従来とは異なり、初めてのオンライン開催となりましたが、お陰様で大学や校友会関係者の皆様のご協力により、学生の皆様にも素晴らしい講演を聞いていただくことができました。こうした場を設けることができた事はとても素晴らしいことですし、この内容こそが「つながれ！立教 ONE TEAM」そのものではないか、と思っております。

聞いていただいている学生の皆様に対し、一言だけ立教経済人クラブについてご説明いたします。立教経済人クラブは産業経済界の方々、また各専門分野でご活躍の方々で構成されており、活発な活動が行われています。会員相互の啓発、そして懇親を深めていくことが、私どもの目的です。細かい内容については是非ホームページをご覧ください。学生の皆様が卒業して経済人になった暁には是非立教経済人クラブに入会していただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

私たちは50周年に向け、この激動の時代を歩み始めています。これからの立教経済人クラブを支えていく担い手である若い方々とバトンをつなぎながら、更なる飛躍を皆様と一緒に進めていきたいと思っています。今後とも是非よろしく願いいたします。

ておられることを確認し、対策を徹底することを前提に2021年10月26日の実施に向けて準備を進めてまいりました。しかし、コロナ感染症は一段と猛威を振るい、皆様にご参集いただく式典、懇親会をさせていただける状況ではなくなり、8月にホテルでの開催を断念し、式典・基調講演のみをWEB開催することに切り替えさせていただきました。2年に及ぶ延期とホテルでの開催を断念したことにより、金額面のご協力は頂いたものの会場ホテルのキャンセル料が発生してしまいました。そのような中、大学・校友会のご協力もあって、40周年記念式典、基調講演のWEB開催にあたり、太刀川記念館を配信会場として使わせていただけたことは、大変ありがたく、幸いな事でした。また、産学連携の試みとして、初めて立教大学生にも基調講演の配信ができたことも感謝に堪えません。

以上のような経緯を経て、40周年記念式典を開催することができましたが、当初計画をした内容から大きく変わってしまいました。これまで誰も経験をしたことのない状況の中、様々知恵を絞り、実行委員会としてはできる限りの準備をしてまいりました。会員の皆様のご期待に沿えない部分が多々あったことは大変申し訳なく思いますが、何卒ご理解、ご容赦いただければ幸いです。

来る50年に向けて会員の皆様共々、進んでまいりたいと思います。引き続き、よろしく願い申し上げます。

基調講演

株式会社リクルートホールディングス 代表取締役会長 兼 取締役会議長

峰岸 真澄

皆さん、こんばんは。リクルートホールディングスの峰岸です。本日は立教経済人クラブ創立40周年、誠にありがとうございます。そのような記念すべき日にお招きいただきましてとても光栄に存じます。

本日のテーマは「経済社会の変革と企業の役割」とさせていただきました。様々な経済と社会の変化が激しい状況下で、企業はどのような役割を果たすべきだろうか、という点と、それに対するリクルートグループの経営戦略を具体的に紹介いたします。



経済社会の変革と企業の役割

● 変革が加速する米国、何もかもが遅すぎる日本

コロナ禍においてイノベーションの機会はむしろ増大しています。それは医療、教育、働き方など、社会の「不」が一気に表出したからではないでしょうか。社会のデジタル化や働き方がどう変わったかなどがデータによって明らかになってきています。日米で比較すると、オンライン診療の実施率、初等教育におけるオンライン授業の実施率、テレワークの普及など、アメリカでは急拡大した一方で、日本はまだまだこれからです。

● 企業と人材の新陳代謝の度合い

現在アメリカは大変景気が良く、企業の新規参入が増えています。それに比べ、日本はほぼ横ばいです。企業の廃業もアメリカでは相当数ありますが、それ以上に新規参入が多いという状況です。失業率も昨年アメリカは14.8%まで到達しましたが、底を打って、その後失業率は回復傾向です。一方の日本はご存知の通り少しずつ改悪される傾向が続いています。有効求人件数はアメリカが大きく増えているのに対し、日本は下がったままです。

● 産業の変革を後押しする企業の上場

例えばテレワークについてです。アメリカのZoomは9.4兆円、Slackは3.0兆円という時価総額をつけて上場しているのに対し、日本でもChatworkが上場していますが、1桁2桁小さい規模です。デジタルヘルス、フードデリバリーについても規模は1桁2桁違います。EVカーにおいてはアメリカで専門のスタートアップが上場する一方、日本ではそうした企

業は見当たりません。変革がコロナによって加速するアメリカと、何もかもが遅すぎる日本、というのが真実ではないでしょうか。

● 求められる企業の役割とは

私の持論ですが、本来企業の役割とは、イノベーションの持続的な創出により社会の「不」を解決し、自社が対峙する産業の変革をリードすることで、社会の変革をしていくことであると思います。コロナ禍においても、企業が取り組むべき問題・課題に本質的な変化はないと考えています。そして、企業経営者が果たすべき役割というのは、自社の存続を目指すことではなく、自社が対峙する産業の変革の実現による社会の変革を企業という組織を通じて行うことです。

企業の経営者の果たすべき役割が産業変革であり、結果としての社会変革であるとすれば、そこでのポイントは3つあります。

① 「対峙する産業変革へのコミットメント」

企業経営者が、眼前の業績ではなく、対峙する産業の変革に本気でコミットしているか

② 「最重要アジェンダへの集中」

インパクトにこだわり、自社が勝てる分野に特化し、最重要のアジェンダに集中できているのか

③ 「結果としての時価総額」

産業変革への取り組みとその将来期待が反映され、企業の時価総額は向上しているのか

そして産業変革の役割を終えた企業は撤退していくべきですし、あるいは他社と統合して産業再編を強化していくことも必要になると思います。

リクルートグループの経営戦略

当社の具体的な事例に基づいて、この3つのポイントについてご紹介していきます。

「対峙する産業変革へのコミットメント」

産業の変革へのコミットメントとして、私どもは人材マッチングビジネスにおいてグローバルリーダーになる目標を掲げています。そのための戦略としては、テクノロジーとデータを駆使して求職者と企業のマッチングの質とスピードを圧倒的に向上させ、採用プロセスを圧倒的に簡単にすることを目指すものです。究極的にはボタン一つで仕事に就ける世界を目指しています。

社会へのコミットメントとして、2030年度までに就業までに掛かる時間を2021年度比で半分に短縮する事を目指します。これはIndeed利用者が、採用に結びつくまでにかかった時間を短くするという事です。OECD（経済協力開発機構）には「3ヶ月間収入が無いと世界の約40%の人々が貧困に陥る」というデータがあります。私どものコミットメントが実現し、この3ヶ月を1.5ヶ月にするだけでも、貧困に陥る可能性のある相当数の方々をサポートできると考えています。

「最重要アジェンダへの集中」

コミットメントに対して成果を出していくためにどんなアジェンダを設定していくか。グローバルの人材マッチング産業の市場は約13兆円から14兆円程度という大規模市場ですが、このうち私どもの占める売上としては1-2兆円です。まだまだ白地として10兆円以上あり、このHR産業そのものをIndeedというプラットフォーム、データとテクノロジーで変革し、長期間かけて転換していく、というのが私どもの戦略です。

IndeedにはGoogleやAmazonと言ったインターネットの超巨大企業と質的に同レベルのエンジニアを抱え、彼らはテキサス州オースティンに集結しています。Indeedは、月間で約2億5000万人が利用しており、利用頂いている企業は約300万社以上を数えます。その利用データが創業以来10年以上

に渡って積み上げられており、採用プロセスをエンジニアが作る最先端のAIモデルで圧倒的に自動化、効率化していくことを推進しているのです。

従来型の手間がかかっていた企業の採用プロセスをIndeedでは膨大なデータとテクノロジーを用いることで、候補者一覧の作成からスケジュール調整まで約80%の業務を自動化、効率化し、圧倒的なマッチングの質でスピードを高め、一連の採用プロセスを一つのパッケージで提供しているのです。今後10年かけてマシンラーニングと、我々の最先端のAIモデルで磨き込み、2030年までに更に就業までに掛かる時間を減らしていくことを目指しています。

Indeedは国内にIndeed Japan株式会社として法人も設立しているのですが、我々にとってはリクナビNEXTやタウンワークといった既存の求人サイトを言えばディスラプション（変革/破壊）していく、という形になります。私は2012年にCEOに就任し、Indeedは第一号海外買収案件でしたが、買収の可否を問う取締役会でも議論がありました。Indeedを買収することで日本の既存のHR事業が淘汰されてしまうのではないかと、という懸念が生まれたのです。しかし先ほども申し上げたように、産業の変革を通じて社会を変革していくことが企業のミッションである以上、自社の既存事業を変えていく、ということは当然の結果であり、既存事業とのカニバリが生まれようともイノベーションの創出を優先するという事が重要です。

そして、中長期のリソースもIndeedを中心としたHRテクノロジーに資源の大多数を配分しています。言う事自体は簡単ですが、一般的には実行時にこの変革する側に資源の大半を投じず、既存事業を修正していくことに投資が行いがちであると思います。コミットメントも大事ですが、実行することも大変重要です。

改めまして、企業経営者の果たすべき役割とは、長期視点で考えることは当然ですが、第一に考えるべきことは自社の存続ではなく産業の変革に長期的に取り組むことであり、結果として社会を変革していくことである、と考えています。ご静聴ありがとうございました。

会員特典

創立40周年記念壁紙ダウンロードのご案内

日頃より当クラブ運営にご協力を賜り誠にありがとうございます。この度、立教経済人クラブ創立40周年を記念し、ビデオ会議等でご利用いただけるバーチャル背景壁紙をご用意しました。ホームページにアクセスの上、是非画像をダウンロードしてご活用ください。

(ダウンロードは立教経済人クラブ会員のみとさせていただきます。パスワードは事務局より別途ご案内いたします。)

URL <https://www.r-keizaijin.net/news/2021/1828/>



会員特典

創立40周年記念式典の基調講演を動画にて限定公開

公開期間：2021年12月20日～2022年3月31日

創立40周年記念式典にてご講演いただきました、リクルートホールディングス株式会社代表取締役会長兼取締役会議長の峰岸真澄様の講演の様子を動画にて限定公開させていただきます。ホームページにアクセスの上、是非ご覧ください。

(閲覧は立教経済人クラブ会員のみとさせていただきます。パスワードは事務局より別途ご案内いたします。)

URL <https://www.r-keizaijin.net/news/2021/1832/>



編集後記

2019年7月に発足した40周年実行委員会。新型コロナウイルスの影響もあり、活動期間は2年半におよびました。当初、実行委員会では会場探しや動員計画、チラシの作成、広告協賛の募集計画などホテル会場での実施を目指して奮闘しておりましたが、一度の延期を経て今年の8月にオンライン開催に決定しました。皆様に直接お会いできなかったのは残念でしたが、大学・校友会事務局ご協力の下、大学構内からの配信、オンライン配信の学生の視聴など、経済人クラブとしても初めての取り組みを行うことができました。新しい生活様式へと舵を切ることを強いられる中、実行委員として刺激的な経験をさせていただくことができました。諸先輩方から暖かいサポートをいただき、委員会の活動ではしっかりと"RIKKYO ONE TEAM"を体感することができたと思います。ニューオータニで複数回実施されたランチミーティングが良い思い出です。この経験を元に来たるべく50周年にしっかりとバトンを繋いでいきたいと思っております。改めまして、立教に乾杯。

会報委員長 松原 伸禎